

## 講演会のご案内

# ロシア聖人物語の世界とその現代文化への広がり



中世ロシアを舞台とする小説『聖愚者ラヴル』（2013年ポリシャヤ・クニーガ賞受賞）の邦訳出版を記念して、3月下旬に作者のエヴゲーニイ・ヴォドラスキン氏が、国際交流基金の招聘により、奥様のタチアーナ・ルーディ氏とともに来日されることになりました。ヴォドラスキン氏は新進の作家であると同時に、スラブ・ロシア世界のビザンツ年代誌の専門研究者として、故D・リハチョフ氏が長年にわたり主宰してきた、ペテルブルグのロシア文学研究所（プーシキン館）中世ロシア文学部門の上級研究員をつとめています。また、ルーディ氏も

同部門の研究員として中世ロシア聖人伝研究の分野で活躍されています。

ご夫妻の京都訪問の機会に、下記の要領でご自身の専門分野について最新の研究成果をお話していただく講演会を企画しました。ロシア文学・文献学、歴史学の専門の方々、ロシアの宗教文学の世界に興味をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。事前の申し込みは不要です。

## 講演題目

### ● タチアーナ・ルーディ（ロシア文学研究所）：中世ロシア聖人伝のタイポロジー

Татьяна Робертовна Руди: О типологии древнерусских житий

### ● エヴゲーニイ・ヴォドラスキン（ロシア文学研究所）：現代と中世：長編小説『聖愚者ラヴル』の二つの文脈

Евгений Германович Водолазкин: Современность и Средневековье: два контекста романа «Лавр»

司会 中澤敦夫（富山大学人文学部）

使用言語：ロシア語（質疑応答では、適宜通訳を入れます）

お二人の研究者としての業績は次のサイトで見ることができます。

Руди, Татьяна Робертовна

<http://odrl.pushkinskiydom.ru/Default.aspx?tabid=1972>

Водолазкин, Евгений Германович

<http://odrl.pushkinskiydom.ru/Default.aspx?tabid=1965>

日時：2017年3月25日（土）14:00—17:00

場所：京都大学総合人間学部1階、1102講義室

主催：国際交流基金、共催：古代ロシア研究会

お問い合わせ：

京都大学文学研究科スラブ語学スラブ文学専修（中村唯史：075-753-2781、[nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp](mailto:nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp)）

富山大学人文学部（中澤敦夫：076-445-6231、[nakazawa@hmt.u-toyama.ac.jp](mailto:nakazawa@hmt.u-toyama.ac.jp)）

